

テーマ：『 私たちのまち瀬ヶ崎の海・川・森 環境マップ
～野島・侍従川・アスレチックの森の自然をつなごう！～ 』

横浜市立瀬ヶ崎小学校

Tel. 045-781-2446

担当者：

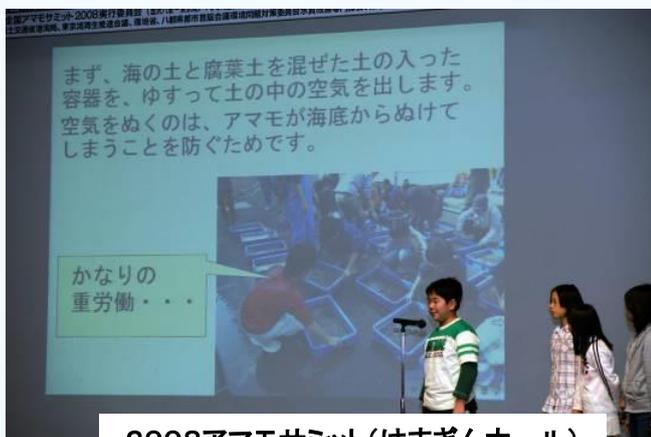
本間公則



アマモの苗を植える子どもたち



侍従川の調査をする子どもたち



2008アマモサミット(はまぎんホール)



こどもエコフォーラム(青葉公会堂)

■実践内容：

金沢区は、「山・川・海・まち」をつなぐ総合的な環境学習を完結することができる地理的条件に恵まれた横浜市内で唯一の地域である。本校も例外ではなく、学区が野島・平潟湾に面し、学区を侍従川が流れるという恵まれた環境にある。この環境を生かし、これまでに侍従川や野島・平潟湾をフィールドとした環境学習を進めてきた。また、アマモ場再生の取組や海の環境学習会などの校外の行事にも積極的に参加し学習を深めてきているところである。今年度は、敷地内にあるアスレチックの森も活用し、海（野島）・川（侍従川）・森（アスレチックの森）をつないだ総合的な環境学習をさらに深めていきたいと考え、本主題を設定した。

(研究内容)

- ①学区に面する野島・平潟湾や侍従川、アスレチックの森の環境を調べて「環境マップ」を作成し、そこから見えてくること、分かることを校内や家族、地域の人たちに伝えていく。
- ②児童が学区や学区に隣接する自然環境を大切にすることで、瀬ヶ崎のまちを大切にしていこうとする心情を育む。
- ③アマモ場再生の取組や海の環境学習会などの校外行事に積極的に参加することで、地域の自然環境や生物に関心を持ち、活動を通して自然環境を守る大切さを理解する。
- ④学区に面する野島・平潟湾や侍従川、アスレチックの森の自然環境を活用して、教科（生活科・理科）、総合的な学習の時間、その他の領域の学習の充実を図る。
- ⑤NPO法人海辺つくり研究会や金沢八景—アマモ場再生会議との連携を引き続き図り、より良い連携のあり方を探る。

■実践成果：

(1) 成果

- ①地域や校内の学習材を有効に活用して環境学習を行うことができた。・野島の環境調査・侍従川の環境調査・アスレチックの森の環境調査 など
- ②環境教育として実践した学習内容を発表したり紹介したりするなど、環境学習の成果を全校や地域に発表し発信することで学習を深めることができた。・瀬ヶ崎ふれあいフェスティバル・全国アマモサミット2008・こどもエコフォーラム・2008サケっ子プロジェクトなど
- ③アマモ場再生活動等への継続的参加・金沢八景—東京湾アマモ場再生会議が行っているアマモ場再生活動や海の環境学習会に継続して参加し活動を続けることを通して、海の環境や環境を守る活動に対する意識が高まった。
- ④関連団体・組織との連携を図ることにより、

(2) 課題

- ①環境教育推進委員会を中心とした組織的な取組・今年度は、5・6年生の取組を中心に環境教育を推進してきたが、組織的に取り組むことにより、全校に環境教育を広げていく。
- ②環境教育全体計画の修正と検証・環境教育の指導内容の系統化を図り、教科等との関連を明確にする。
- ③環境学習の単元開発の継続と実践の蓄積・単元の開発および検証したものをカリキュラムとして整理していく。

■実践ポイント：

- ①6学年を中心に校内の研究体制を整備し、計画的、継続的、組織的に研究を進める。
- ②環境教育実践推進校の情報交換会に参加し、各校の研究成果を生かし、本校の研究を深める。
- ③NPO 法人海辺つくり研究会や金沢八景—東京湾アマモ場再生会議とのより良い連携のあり方を探り、児童の活動の充実を図る。